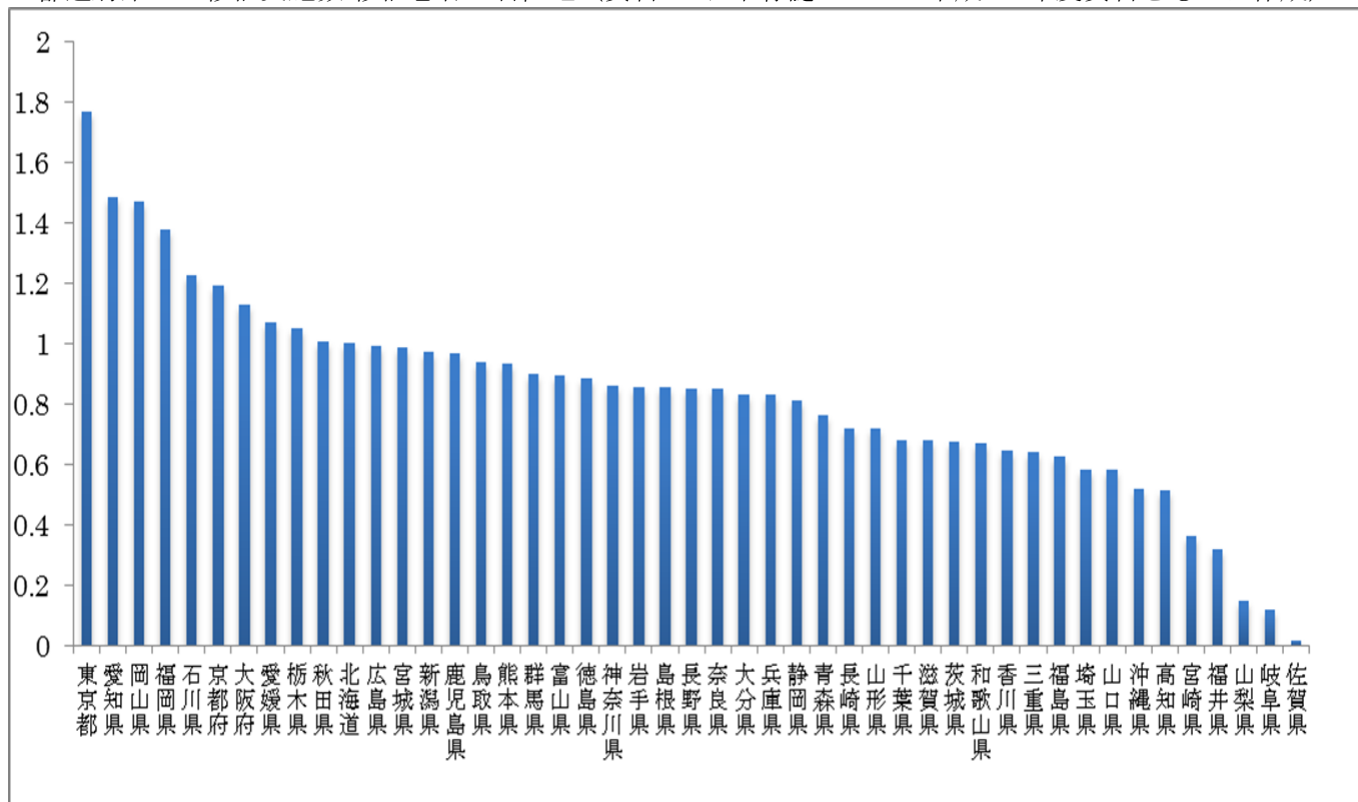
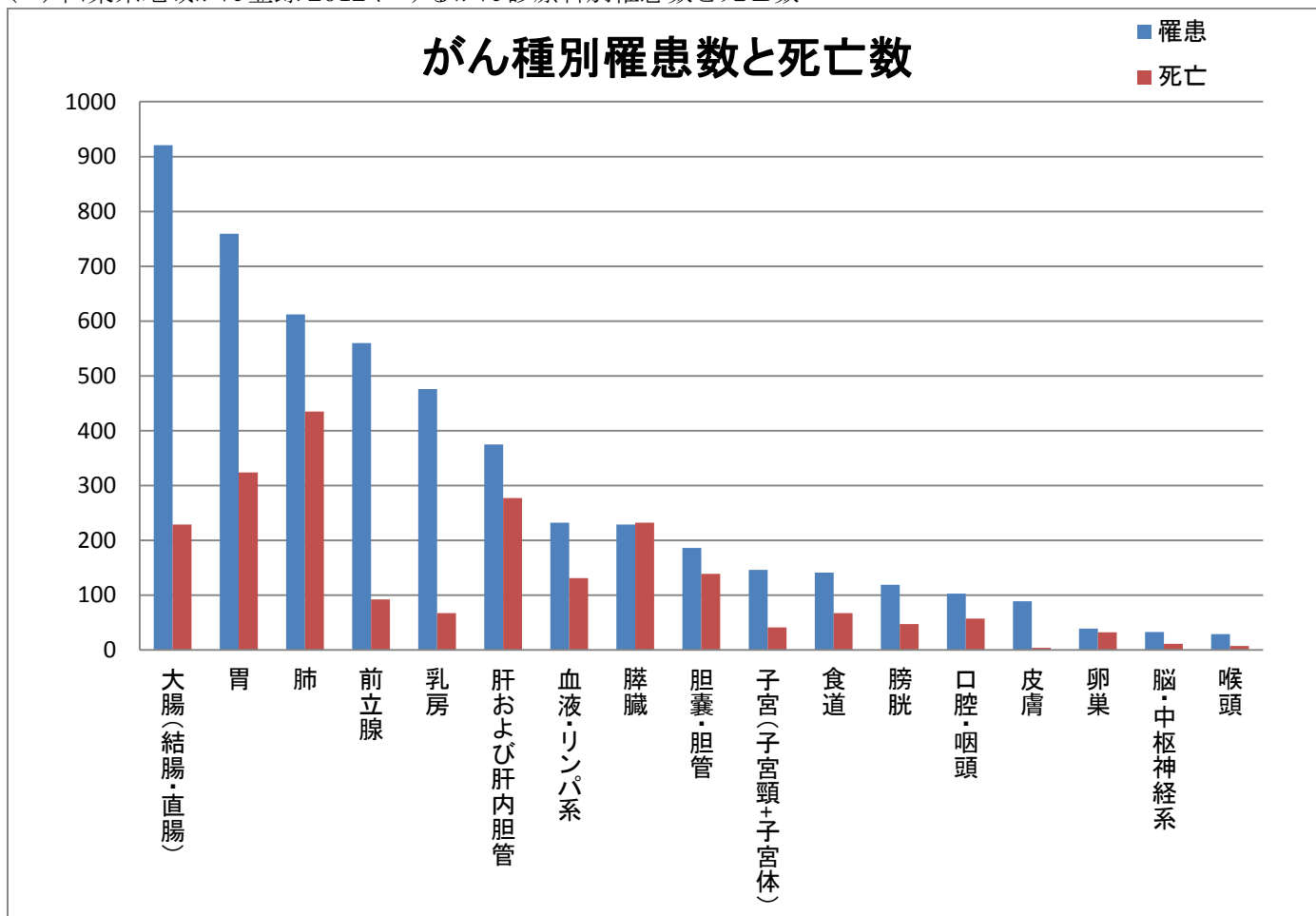


(ウ) 移植環境の充実度

都道府県での移植実施数/移植患者の居住地 (資料: 日本骨髄バンク 平成 28 年度資料をもとに作成)



(エ) 山梨県地域がん登録 2012 にみるがん診療科別罹患数と死亡数

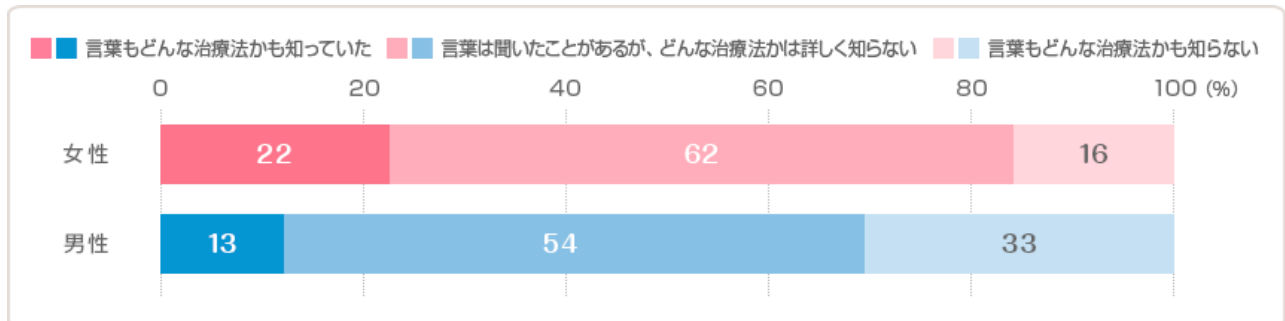


※ 造血疾患を一つの分野として考えると、その数は多く、がん種別罹患患者数ベスト 7 以上となる

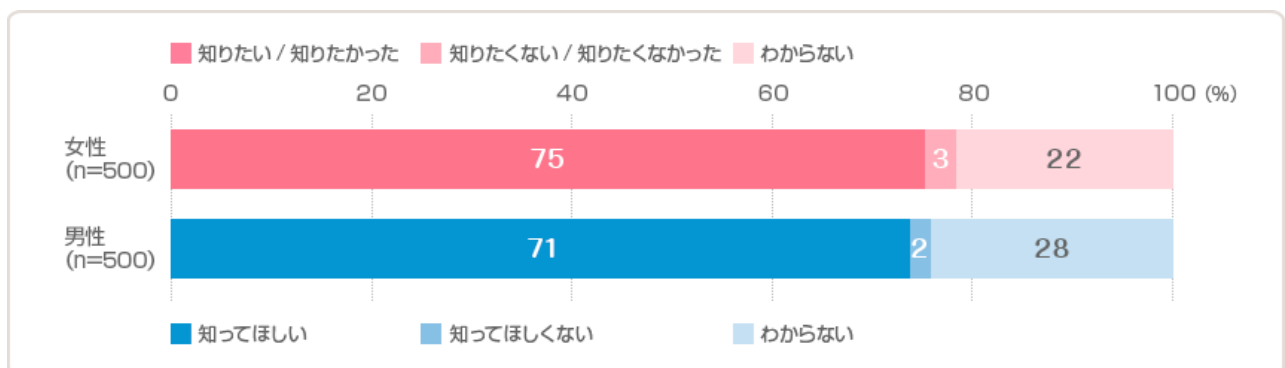
乳房再建について

➤ 乳房再建に高い関心度—男女とも7割以上が「知りたい」

あなたは乳房再建についてどの程度知っていましたか(単一回答)。



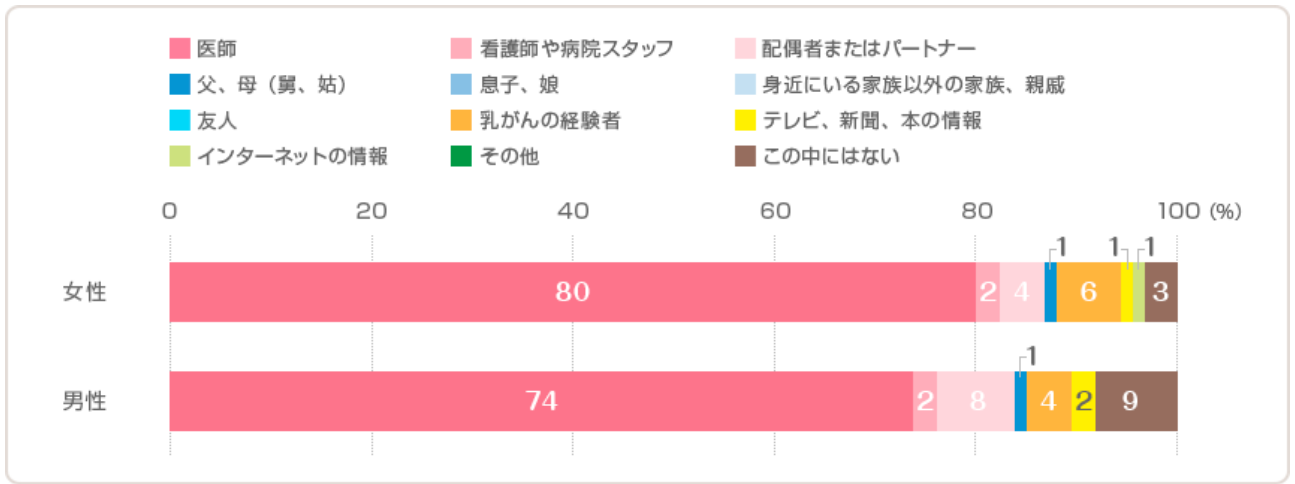
もしあなた(女性の場合)またはあなたの配偶者やパートナー、ご家族(男性の場合)が乳がんと診断された場合、乳房再建についての情報を「知りたい(乳がん患者さんの場合、知りたかった)」または「知ってほしい」と思いますか(単一回答)。



一般男女の乳房再建に対する認知度はまだ低く、どんな治療法かまで知っている人は女性でも2割程度にとどまりました(Q4)。ただし、乳がんと診断された場合に乳房再建について「知りたい/知りたかった」と答えた女性、「知ってほしい」と答えた男性の合計は約7割に上り、乳房再建に関する関心度の高さが示されています(Q5)。

➤ 乳房再建を検討する段階で最も重視する情報源は医師

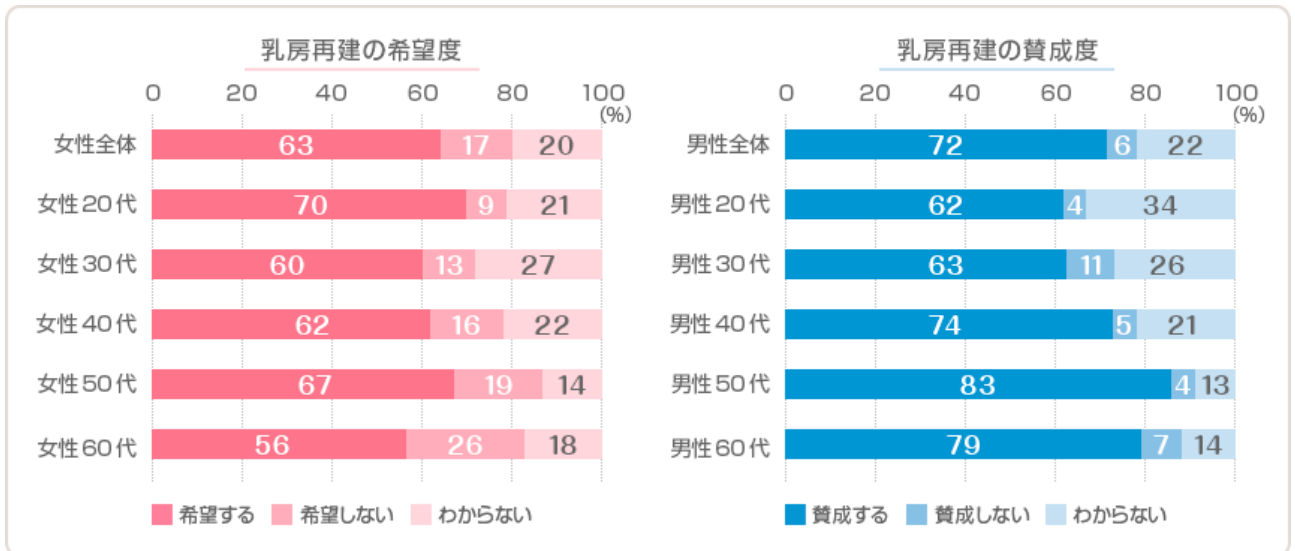
もしあなた(女性の場合)またはあなたの配偶者やパートナー、ご家族(男性の場合)が乳がんと診断され乳房再建を検討する場合、情報収集する段階において、どの情報源を重視すると思いますか(単一回答)。



男女ともに医師が圧倒的な多数を占めました。この結果から、乳がん治療に携わる医療従事者のうちでも特に医師が、乳房再建に関する情報提供の担い手として期待されていることが示されました。

➤ 6～7割の男女が乳房再建に賛成—男性はより賛成傾向

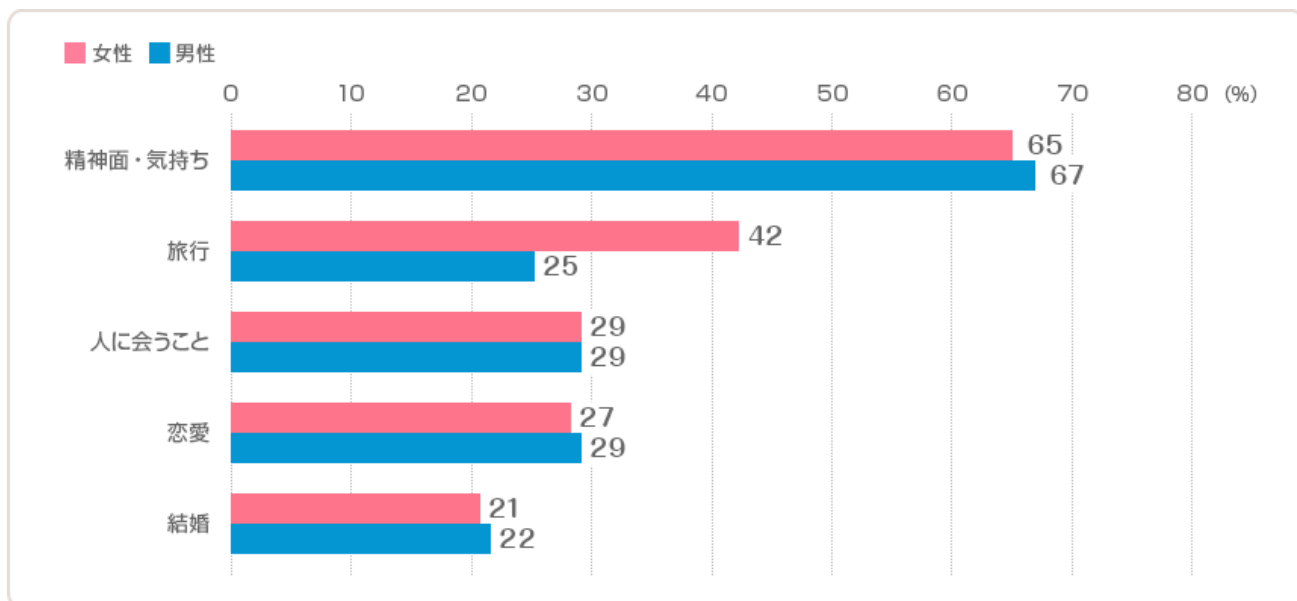
もしあなた(女性の場合)またはあなたの配偶者やパートナー、ご家族(男性の場合)が、乳がんと診断され、乳房を切除することになったら、乳房再建を希望または賛成しますか(単一回答)。



全世代の合計で、乳房再建を希望する女性の割合(63%)よりも、賛成する男性の割合(72%)が上回りました。特に40～60代では、希望する女性が6割程度であるのに対し、男性は約8割が賛成しており、中高年の男性は、配偶者やパートナーの乳房再建を積極的に支援しようとしていることが明らかとなりました。

➤ 乳房再建しない場合のマイナス影響は「精神面・気持ち」

乳房を摘出後、乳房再建をせずにそのままの状態与生活するとしたら、どのようなことで不便に感じるとおもうますか(複数回答)。



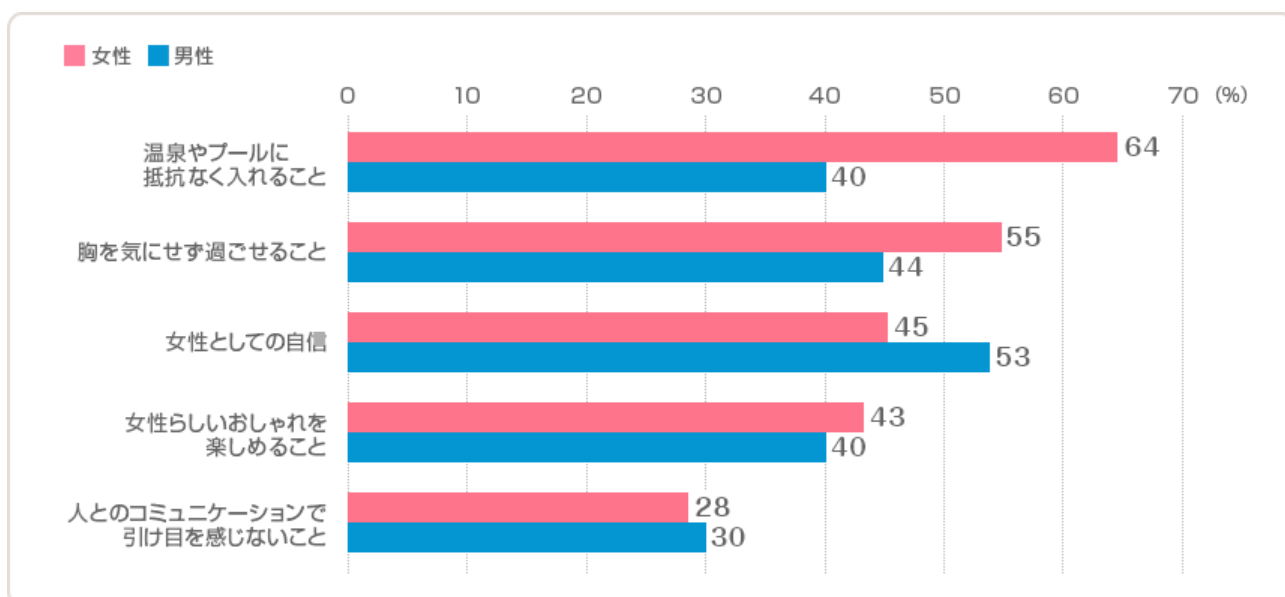
※回答数の多かった上位5つを抜粋

上記以外の選択肢: 「日常生活」「運動・スポーツ」「普段の外出」「趣味・娯楽」「家事」「仕事」

男女ともに「精神面・気持ち」が6割を超えてトップとなり、乳房を失うことに対する喪失感や、それを思いやる気持ちが強いことがうかがわれました。また、女性の第2位は「旅行」(42%)で男性(25%)よりも圧倒的に多く、旅行などの普段と違う環境で、女性がより人目を気にすることの表れかもしれません。

➤ 乳房再建への期待は、「罹患以前のような生活」と「自信」の回復

もし乳房再建をするとしたら、どのようなことが得られるとおもうますか(複数回答)。



※回答数の多かった上位5つを抜粋

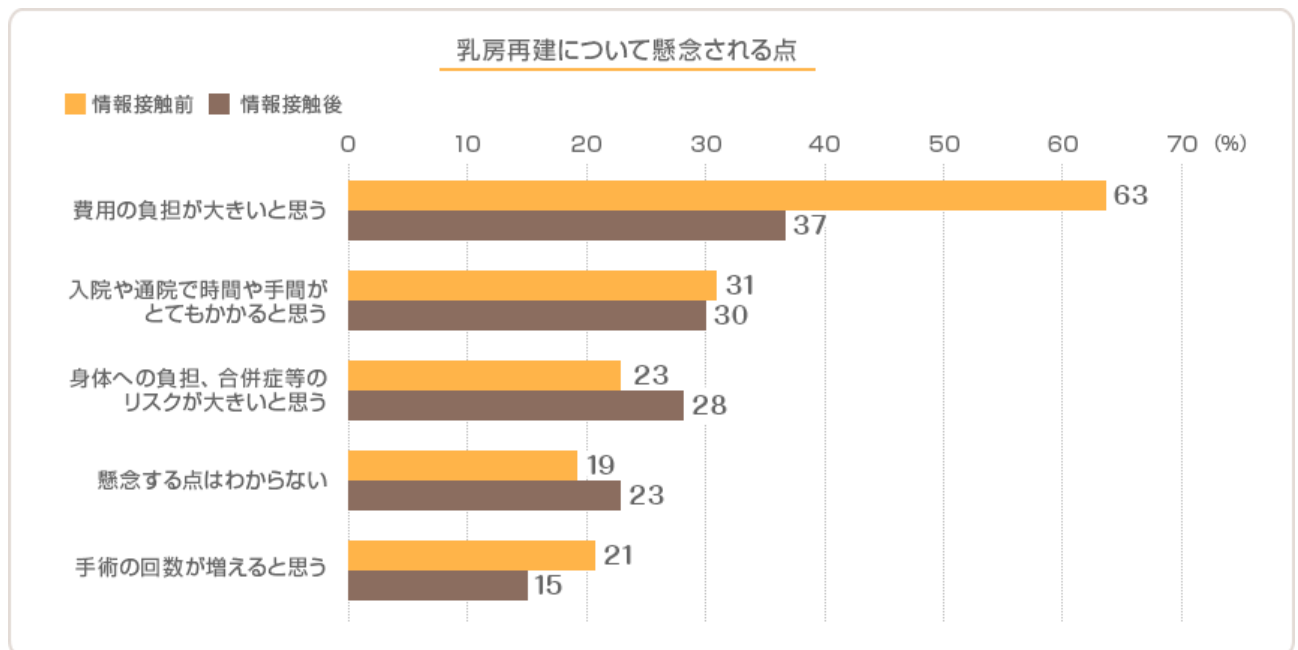
上記以外の選択肢:「乳房摘出前と同じような積極性、前向きな気持ち」「家族と一緒に風呂に入れること」「乳がんにかかる前と同じ生活」「乳がんの存在を忘れられること」「体を動かすことに抵抗がなくなること」「日常の生活や活動に制限を感じないこと」

女性のトップは「温泉やプールに抵抗なく入れること」が64%で、男性の40%を大きく超え、温泉やプールを楽しみたくても、人目を気にする女性が多いことがわかりました。そのほか、罹患以前のような生活や自信を取り戻せることを期待する声が多く聞かれ、女性の精神面に及ぼす乳房の存在の大きさが示されました。

➤ 乳房再建の懸念点は「費用」、健康保険適用への認知度は極めて低い

乳房再建について懸念される点(当てはまるもの)をお聞かせください(複数回答)。

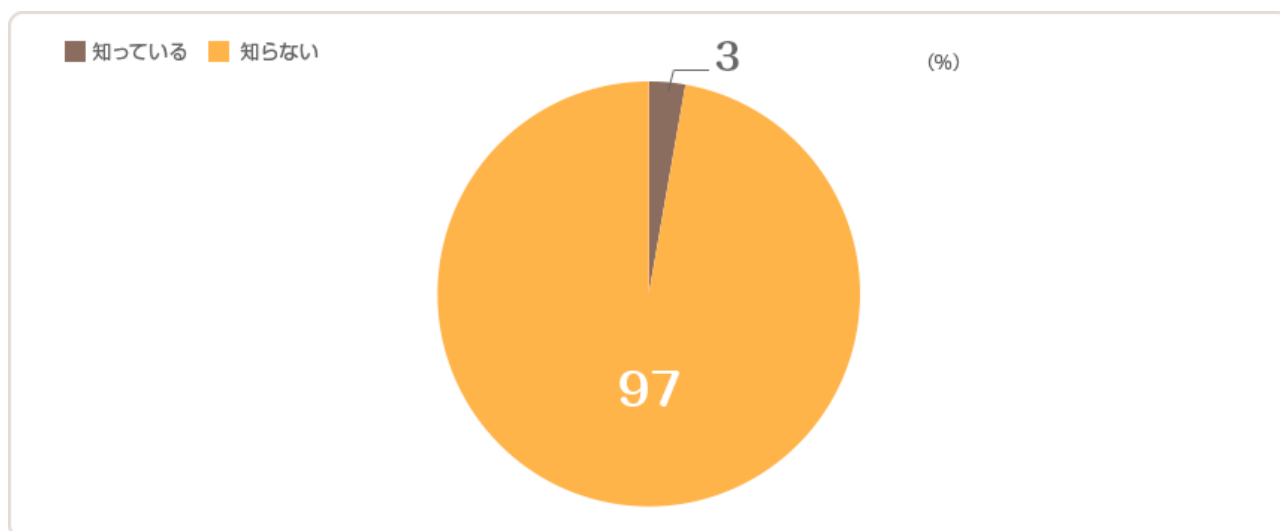
※設問の途中で乳房再建に関する資料を提示しました。情報に接触する前後で同じ質問を2回聞き、回答を比較しました。



※回答数の多かった上位5つを抜粋

上記以外の選択肢:「民間の医療保険や生命保険が使えないと思う」「きれいな形の乳房を取り戻せないと思う」「希望する時期・タイミングで手術を受けられないと思う」「乳房を失っても乳房再建するのは当たり前だと思わない」「希望する年齢で手術を受けられないと思う」「乳がんの治療の妨げになると思う」「乳房の有無は重要ではないと思う」「乳房があってもなくても、気持ちの変化は特にないと思う」

乳房再建に健康保険が適用されることを知っていますか(単一回答)。



乳房再建についての懸念点として「費用の負担」を挙げた男女の割合は、情報提示前は63%に上りましたが、情報提示後は37%まで減少しました(Q9)。提示した情報には、健康保険と高額療養費制度を活用すれば、実際の自己負担額は10万円程度になることなどが含まれていました。また実際に、情報提示前に乳房再建に健康保険が適用されることを知っていた割合は3%に過ぎませんでした(Q10)。この結果から、乳房再建への健康保険適用や実際の費用についての認知度が極めて低いことが明らかとなりました。

調査概要

対象：全国の20代～60代の一般男女1,000人(都道府県の人口比率に合わせて設計し、調査サンプルは性別年齢ごとに均等割付)

調査期間：2014年5月16日～5月21日

調査方法：インターネット調査(株式会社アンテリオ調べ)

出典：乳房再建ナビ

<http://nyubo-saiken.com/questionnaire/>

山梨県の実際

山梨県は関東・甲信越地区において人工物による乳房再建率が最も低い

	乳癌手術数 ^{*1}	全摘出数 ^{*2}	人工物再建数 ^{*3}	人工物再建率
全国	71,355	28,542	5,310	19%
関東・甲信越	29,240	11,696	2,744	23%
山梨県	431	172	12	7%
長野県	1,190	476	109	23%
新潟県	1,176	470	47	10%
東京都	10,869	4,348	1,771	41%
千葉県	3,339	1,336	245	18%
神奈川県	5,346	2,138	380	18%
埼玉県	3,152	1,261	143	11%
群馬	1,207	483	83	17%
栃木	1,118	447	62	14%
茨城	1,412	565	60	11%

*1 病院口コミ検索サイト「Caloo・カルー」より（2014年4月-2015年3月）

*2 乳がん手術のうち、全摘出を40%で算出。全国平均比は全摘出：部分切除＝40%：60%（アラガン社調べ：2014年4月-2015年3月）

*3 乳房専用エキスパンダー使用個数（アラガン社調べ）

国の動き（がん対策基本法・がん対策推進協議会等の情報）

□ がん対策基本法の一部を改正する法律案について

第192回臨時国会において、がん対策基本法の一部を改正する法律案が提出されており、平成28年11月16日に参議院を可決

□ がん対策推進協議会

回数	開催日	議題等
第62回	2016年11月24日 (平成28年11月24日)	がん対策推進基本計画の見直しについて ・がんに関する相談支援と情報提供について ・がんの教育・普及啓発について ・がんの予防、がん検診について
第61回	2016年10月26日 (平成28年10月26日)	がん対策推進基本計画の見直しについて ・次期基本計画の全体目標とがん対策の指標について ・がん医療の充実について
第60回	2016年9月30日 (平成28年9月30日)	がん対策推進基本計画の見直しについて ・ライフステージやがんの特性に応じたがん対策について ・がん患者、家族が安心して暮らせる社会の構築について
第59回	2016年8月26日 (平成28年8月26日)	がん対策推進基本計画の見直しについて ・将来を見据えたがん対策の実現に向けた議論 ・がんに関する研究開発について ・がん登録について
第58回	2016年7月6日 (平成28年7月6日)	がん対策推進基本計画の見直しについて ・小児がんについて ・がん患者の就労を含めた社会的な問題について
第57回	2016年5月27日 (平成28年5月27日)	がん対策推進基本計画の見直しについて